

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、2025年度(財)日本陸上競技連盟規則 及び 本大会申し合わせ事項により実施する。

2 練習について

- (1) 練習会場は、陸上競技場及び野球場となりのスポーツ広場とする(従来の多目的グラウンドは使用不可)。
スポーツ広場と競技場の移動の際は、引率・指導者が同伴し、道路の横断に十分に注意すること。
- (2) 周回競技を行っていない時は、バックストレートで練習することができる(周回競技開始5分前まで可)。
ただし、許可時間であっても競技役員の指示に従うこと。
- (3) 競技場内での練習では、逆走、ミニハードル等をレーン上に置いての練習は禁止する。
- (4) 競技場内での投てき物の使用は、安全な場所が確保できないため行わないこと(公式練習のみとする)。
スポーツ広場では、引率・指導者の指導・責任のもと、周囲の安全に気をつけながら行うこと。

3 招集について

- (1) 招集所 招集は、全種目、本競技場の東側スタンド下(100mゴール付近)で行う。
トラック競技出場者は、同時に腰ゼッケンを受け取る。

- (2) 招集時刻

トラック競技	競技開始20分前 招集完了
フィールド競技	競技開始30分前 招集完了

- (3) リレーのオーダー用紙は競技者係より受け取り、予選、決勝とも、招集完了時刻の1時間前までに1部を競技者係に提出する。

- (4) 招集の方法については次の通りである。

- ① 競技者は、招集完了時刻までには(1)の招集所に行く。役員の指示に従い、招集所内の席で待機し、最終点呼を受ける。その際、アスリートビブス(旧ナンバーカード)・スパイク・商標等の点検を受ける(トラック種目出場者は、腰ナンバーカードを1枚受け取り出発までに右腰部やや後方に付ける)。
- ② 招集に遅れた競技者は、欠場とみなして処理する。
- ③ 欠場する競技者またはその関係者は、招集完了までに所定の欠場届を競技者係(100mゴール付近)に提出する。
- ④ アスリートビブスは所定の大きさのままで胸・背部両面に確実に付けること(スポンサー名を隠さない)。
- ⑤ 2種目を同時に兼ねる競技者は、その旨を本人または代理人が招集時刻までに『2種目同時届け』を競技者係に提出し、報告すること。(リレー種目と個人種目)
- ⑥ コンバインド(混成)は、2種目とも招集を行う

4 競技の抽選及び番組編成について(レーン順)

- (1) 競技におけるレーン順はプログラム記載順序による。決勝の組み合わせ、レーン順は主催者が決める。
- (2) 競技において決勝進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たとき(以下同タイム者という)は下記の方法で決定する。

*トラック競技の同タイム者(チーム)については、レーンの余裕の範囲内で次のラウンドに進むことができる。

レーンに余裕のない場合は、判定写真を拡大し、細部まで読みとり、着差の判定をする。それでも判定できない場合は、同タイム者または代理人によって抽選する。

5 競技について

【50m、100m、4×100mR、コンバインド A の80mH】

- ① 競技は全て写真判定装置を使う。
- ② スタート時のコールは英語（イングリッシュコマンド）で実施する。
- ③ スタートでは、同じ競技者が2回の不正スタートをしたとき、その競技者を失格とする。
- ④ 5、6年生の全国大会につながる種目のトラック競技のスタートは、クラウチングスタートとする。
1～4年生の種目については、この限りではない。
- ⑤ 競技者は安全確保のためにフィニッシュライン通過後も自分に割当てられたレーン（曲走路）に従って走る。
- ⑥ スパイク・ピンについては、鳥取陸協 新 HP 掲載の「使用スパイク・ピンの規格等の申合せ事項」による。なお、小学生については、シューズの底の厚さ等を規定した「シューズ規程に関するルール（第143条・競技用靴）」の適用外とする。
- ⑦ スターティングブロックの使用は、決勝のみ使用可とする。
- ⑧ トラック競技では腰ナンバーカードを使用する。競技者係より受け取り右腰の中心線より少し後方につける。
- ⑨ リレー競走におけるテークオーバーゾーンは、30mとする。
- ⑩ リレー競走に使用するマーカーは主催者が準備し、1人1ヶ所に限り使用することができる。マーカーは前走者が取り除くものとする。
- ⑪ 3～6年生100mは、予選をタイムレースとし、上位8着までが決勝に進出する。1～2年生50mは、タイムレース決勝により、上位8名を入賞とする。
8位のタイムが2名以上いた場合は、「4 競技の抽選及び番組編成について（レーン順）」の（2）にそって対応する。

【コンバインドの 走高跳、走幅跳、ジャベリックボール投】

- ① 走高跳のバーの上げ方については、下記の通りである。跳び方は、はさみ跳びとする。マットへの着地は足裏からとし、背・腰からの着地は無効試技とする。
★小学校男子1m、1m05、1m10、1m15、1m20、1m25（以後3cmずつ上げる）
★小学校女子1m、1m05、1m10、1m15、1m20、1m25（以後3cmずつ上げる）
- ② 走高跳は、自分が申告した高さから競技を開始し、2回続けて失敗した時点で終了とする。
- ③ 走幅跳、ジャベリックボール投の試技は、2回とする。
- ④ ジャベリックボール投の試技は、ボール本体を持ち、オーバーハンドスローで投げることにする。
- ⑤ ジャベリックボール投は、やり投げピットを使用する。（計測角度もやり投げ同様とする）。なお、助走距離は15m以内とする。

【コンバインド（混成）の順位決定について】

コンバインドにおいては、別に定める得点表にそって、2種目の合計得点によって順位を決定する。全国大会では、同点の場合、同順位となるが、本大会は県代表選考会でもあるので、同点だった場合、以下のように順位を決定することにします。

同点だった場合、

- ① 2種目のうち、よりよい順位の種目で比較し、その順位が上位の選手を勝者とする。
- ② 2種目のうち、よりよい順位が同じ場合は、2種目の平均順位が上位の選手を勝者とする。
- ③ よりよい順位も、2種目の平均順位も同じだった場合は、本人による抽選を行う。

【コンバインドの得点について】

コンバインドの得点は、「JAAF 小学生コンバインド種目得点表(2022年度改訂)」による。

◆ 記録の得点換算方法

◆ 記録の得点換算方法について

各記録の得点換算方法は、男女ともに以下の計算式を用い得点に換算する。
なお計算時、小数点以下は切り捨てとする。

【種目別計算式】

※ $y = \text{得点} / x = \text{記録}$

80mハードル(秒)	$y = -170.94x + 3342.7$
走高跳(m)	$y = 1153.8x - 465.38$
走幅跳(m)	$y = 280.11x - 226.61$
ジャベリックボール投(m)	$y = 20.325x + 60.163$

◎ 得点換算の具体例

① 80mハードルを12秒50で走った場合

計算式： $(-170.94 \times 12.50) + 3342.7 = 1205.95$ となる。

小数点以下は切り捨てとなることから、この場合の得点は1205点。

② ジャベリックボール投で56m15cmを投げた場合

計算式： $(20.325 \times 56.15) + 60.163 = 1201.411$ となる。

小数点以下は切り捨てとなることから、この場合の得点は1201点。

6 表彰について

第3位までの入賞者は競技終了後直ちに受賞者席に待機し、成績発表後表彰をする(賞状とメダル授与)。

受賞者が他種目出場等で出席できない場合は、代理人を必ず出席させること。賞状は8位まで用意するので4位以下の入賞者は表彰席に受け取りに来ること。

7 全国大会について

(1) 5・6年生の各種目(共通も含め)の優勝者は、来る11月1日(土)～3日(月)に横浜日産スタジアムで開催される「日清食品カップ 第41回全国小学生陸上競技交流大会」に鳥取県代表として内定する。

リレー、個人ともに優勝した場合はリレーを優先し、2位以下の選手を繰り上げて代表とする。

(2) 代表となった選手、ならびにコーチ・保護者は、大会主催者の決定事項を順守し、鳥取県代表として決まりを厳守すること(守れない場合は、代表を辞退していただく)。

(3) 競技終了後、競技場内にて全国大会参加のための説明会を開催するので、選手、チームの代表者は必ず出席すること。(大会開催中に、時間と場所をお知らせします)

8 一般的注意事項

(1) 大会出場時の急病・事故については応急処置以外の責任は負わない。

(2) 貴重品の管理は各人で行うこと。紛失の責任は負わない。

(3) 横断幕はメインスタンド最背面及び曲走路側芝スタンドの手すりで許可する。(のぼりは芝スタンド手すり可)

(4) 当日の記録は、メインスタンド東側外(ゴール側道路に面した壁面)に掲示する。

(5) メインスタンドにおける写真撮影は、上側(後方)4列のベンチ及びそれより後ろのみとする。他の場所については、場内アナウンス及び表示等によって伝える。

9 個人情報取り扱いについて

(1) 個人情報の取得と使用について

本大会主催者は、個人情報保護に関する法律及び関連法令等を遵守して個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、ホームページ、その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。

(2) 映像・動画・画像の撮影と使用について

本大会主催者及び日本陸上競技連盟いずれかが認めた報道機関や大会の協賛・後援の各団体が撮影した大会の映像・動画・画像・記事・個人情報等を、主催者及び主催者が認めた第三者が大会運営及び宣伝等の目的で、大会ポスター・プログラム・パンフレット・大会報告等への使用、及びテレビ・ラジオ・新聞・雑誌・SNS・ホームページ等の媒体に掲載することがある。